

## 第2回 雇用対策官民協働委員会議事概要

日 時	平成 24 年 8 月 30 日 (木) 14:00~16:00
会 場	第二庁舎 第6会議室
出席者	民間：廣瀬委員長、遠藤委員、清水委員、中澤委員、山口委員、塚本委員 佐渡市：大橋委員、市橋委員、高岡委員、観光商工課伊藤課長、石塚委員、木下委員
議 題	①事例紹介（食料産業クラスター協議会による新商品の開発） ②雇用対策官民協働委員会の活動について ③第二創業セミナーについて
議事概要	<p>①食料産業クラスター協議会は 49 箇所設立しており、全都道府県に 1 箇所設置している。新潟県食料産業クラスター協議会のとろけるお魚の「魚クラスター」及び佐渡市の「柿クラスター」の取組を紹介する。全国の 6 次産業の事例紹介。委員の中で、県の事例を知る人はいなかった。</p> <p>②魚が大量に取れるときに、その魚を確保できないか。網元を巻き込んでどうか。(佐渡市には 3 つの漁業生産組合があり、県定置協会の会長は内海府生産組合の本間組合長である。)</p> <p>魚を生かし水族館を併設して、海洋深層水を利用すれば、雇用が生まれるのではないかとの意見あり。</p> <p>飛魚が少ないときに、アジやカワハギを原料としたすり身を生産した。かまぼこは原料となるさかなが取れないので生産できない。</p> <p>地域ブランド（水産加工品の開発）のため、実行部会（水産加工業 4 社より各 1 名程度選出する。）の立ち上げを承諾する。</p> <p>8 月 25・26 日のムーンライトフェスティバルにおいて、トビウオのすり身を原料にしたつくねを販売したところ、大変好評を得た。</p> <p>甲府市のトリモツを例に、地元の食材を使ったすばらしい商品がある。これに、ストーリー性を持たせるといいものが出来るのではないか。</p> <p>糸魚川市筒石漁協では、ニギスの加工品を学校給食に利用して好評を得た。地元の食材からいい商品が作れることを示した好事例である。</p> <p>廣瀬委員長が、水産加工会社を設立した際の苦労した点として、新事業を進める人材がいなことに苦労した。会社には専門家がいななし、コンサルティングは、良い点も悪い点も持ち合わせているので、新たなことを進めることについて、コーディネートできる人材が欲しい。</p> <p>おかみの会がおけさ柿のピューレにし、ドレッシングにしたことを紹介。いろんな方々に協力を得て、商品開発を検討してはどうか。</p>

	<p>③9月から11月までの間に、4回のセミナーを開催する。</p> <p>事例発表については、2社とも糸魚川市の建設業者であり、甲斐市長にお世話になった方である。</p> <p>委員会の皆さんの口コミや第二創業を検討している方には是非紹介していただきたい。</p> <p>また、市のホームページやCNS、佐渡テレビを利用した広報を行うこととする。</p> <p>この委員会の進むべき2本立て</p> <p>①水産加工、共同事業による佐渡特産新商品開発 (食料産業クラスター)</p> <p>②第二創業化を目指す企業の掘り起こしとセミナー開催 →支援策の検討、国、県等の指導機関(大学等研究機関)</p>
<p>次回検討 事項</p>	<p>第二創業を推進するについて、企業は何を必要としているのか、十分話を聞いて施策に反映すること。</p> <p>建設業や他の業種からから第二創業について興味をそそるような仕掛けが必要である。次回は、第二創業を推進する上で、分かりやすいスキームを作成すること。</p> <p>水産加工業の商品作りもいいが、メインは第二創業であることを肝に銘じること。</p>